

資料から見た北河内二次医療圏域の精神医療体制の現状

北河内圏域の特徴（資料3）

- ・狭い面積のなかに人口が多い地域。
- ・人口10万人対精神病床数は大阪市を除き最も少ない。
- ・人口10万人対精神科標榜診療所数は、大阪府内で最も少ない。

精神科病棟の入院者状況（ReMHRAD）からみる課題（資料4）

- ・北河内在住の人が北河内に61.0%入院しているが、その他は三島に12.3%、泉州に9.5%が入院。

平成29年度新精神保健福祉資料（資料5）

【ストラクチャー・プロセス】 ストラクチャー:「疾患領域ごとの医療機関数」、プロセス:「疾患領域ごとの患者数」

1 統合失調症

- ・㊦入院患者数は、大阪府(2.098)、北河内(1.674)で大阪府を下回っている。(人口千人あたり)
- ・㊧外来患者数は、大阪府(11.204)、北河内(12.993)で大阪府を上回っている。(人口千人あたり)
- ・㊨治療抵抗性統合失調症治療薬の使用率は、大阪府(0.12)、北河内(0.06)で大阪府を下回っている。豊能(0.33)、堺市(0.30)は高い。

2 うつ・躁うつ病

- ・㊩認知行動療法を外来で実施した患者数は、大阪府(0.217)、北河内(0.052)で大阪府を下回っている。大阪市のみ平均を上回っている。(人口千人あたり)
- ・㊪精神科電気痙攣療法を受けた患者数は、大阪府(0.015)、北河内(0.027)で大阪府より多い。(人口千人あたり)

3 認知症

- ・㊫㊬認知症を外来診療している医療機関数のうち、「精神療法に限定しない」は北河内(0.475)、「精神療法に限定」は北河内(0.058)で「精神療法に限定しない」が8.18倍となっている。(人口千人あたり)
- ・㊭精神病床での入院患者数は、大阪府(0.833)、北河内(0.438)で大阪府を下回っている。(人口千人あたり)
- ・㊮精神療法に限定した外来患者数は、大阪府(4.373)、北河内(3.617)で大阪府を下回っている。(人口千人あたり)
- ・㊯㊰外来患者数「精神療法に限定しない」は、外来患者数「精神療法に限定」の約4倍となっている。(実数)
- ・㊱認知症疾患医療センターの鑑別診断数は、大阪府(0.487)、北河内(0.225)で大阪府を下回っている。(人口千人あたり)

4 児童・思春期精神疾患

- ・㊲20歳未満の入院患者数は、大阪府(0.033)、北河内(0.021)で大阪府を下回っている。堺市(0.167)が最も高い。(人口千人あたり)
- ・㊳20歳未満の外来患者数は、大阪府(3.518)、北河内(4.399)で大阪府を上回っている。堺市(5.786)、大阪市(4.875)も高い。(人口千人あたり)
- ・㊴知的障害外来患者数は、大阪府(0.472)、北河内(0.997)で大阪府を上回っており、泉州(1.034)に次いで高い。(人口千人あたり)
- ・㊵知的障害外来患者数は、大阪府(4176)、北河内(1161)で大阪府の約4分の1が北河内で受診している。(実数)

7 アルコール依存症

- ・㊶北河内9入院医療機関のうち8機関で入院診療されている。
- ・㊷北河内では40の診療所で外来診療されている。
- ・㊸入院患者数は、大阪府(0.183)、北河内(0.042)で大阪府を下回っている。(人口千人あたり)
- ・㊹外来患者数は、大阪府(0.816)、北河内(0.272)で大阪府を下回っている。(人口千人あたり)
- ・㊺外来1回のみ受診割合は、大阪府(0.129)、北河内(0.155)で大阪府を上回っている。三島も0.204と高い。

8薬物依存症

- ・㊦北河内9入院医療機関のうち6機関で入院診療されている。㊧診療所は17機関で診療されている。
- ・㊨入院患者数は、大阪府(0.013)、北河内(0.021)で大阪府を上回っている。(人口千人あたり)
- ・㊩外来患者数は、大阪府(0.066)、北河内(0.100)で大阪府を上回っている。三島(0.104)が最も高い。(人口千人あたり)
- ・㊪外来1回のみを受診割合は、全国(0.168)、大阪府(0.203)に比べ、北河内(0.293)が上回っている。
- ・㊫大阪府の集団療法は10人全て北河内で実施されている(実数)

9ギャンブル等依存症

- ・㊬北河内9入院医療機関のうち0～2機関で入院診療されている。㊭診療所も0～2機関で診療されている。
- ・㊮外来患者数は、大阪府(0.013)に比べ北河内(0.021)が上回っている。(人口千人あたり)
- ・㊯外来1回のみを受診割合は、全国(0.330)、大阪府(0.291)に比べ、北河内(0.458)が上回っている。

【アウトカム】「退院率、再入院率、入院患者数」

- ・㊰㊱㊲大阪府全体においては、入院後退院率は、3ヶ月(66%)、6ヶ月(85%)、12ヶ月(92%)で、ともに全国をわずかに上回っている。北河内圏域の退院率においては、3ヶ月(61%)では全国を下回り、6ヶ月(84%)で全国とほぼ同等、12ヶ月(93%)では上回っている。
- ・㊳精神病床への新規入院患者の平均在院日数は、全国(119日)、大阪府(115日)よりも北河内(113日)が下回っている。とくに堺市(95日)、大阪市(69日)は低い。
- ・㊴㊵㊶北河内圏域の退院後の再入院率は、3ヶ月時点(18%)、6ヶ月時点(24%)、12ヶ月時点(34%)となっており全国、大阪府を下回っている。

夜間・休日精神科合併症支援システム利用状況について(資料6)

夜間・休日精神科合併症支援システムとは、二次救急医療機関や救命救急センターにおいて精神科合併症患者を治療する際に精神科医師による電話コンサル(相談)を受けることができ、また身体的な治療を終えた患者がスムーズに精神的な治療を受けることができる。

2-②二次救急医療機関等の利用状況(二次医療圏別)(スライド6)

- ・二次救急医療機関等の利用状況は、平成29年度を取り上げてみると、北河内は39病院中13病院が利用しており、33%の割合である。大阪府総計31%と比べてみてもほぼ同等である。過去3年間の利用状況を見ると、毎年度少しずつ利用率が増加していることがわかる。

2-⑤コンサルテーション件数(二次医療圏別)(スライド9)

- ・コンサルテーション件数を見ると、二次救急病院等からの相談は42件と大阪市の次に多い。
- ・相談を受ける側の合併症支援病院への相談は18件と泉州、堺市の次に多い。

2-⑥搬送元と搬送先(二次医療圏別)(スライド10)

- ・搬送先は、堺市、泉州、他圏域が多い。